

外国人お助けアプリ

八戸

八戸学院大学ビジネス学部ビジネス学科の学生が、外国出身者に三八地域のさまざまな情報を提供する英語版のスマートフォン向けアプリ「Hachinohe Info(ハチノヘ・インフォ)」を開発した。メンバーは2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、さらに情報を増やし多くの来訪客を地域に迎え入れたいと意気込んでいる。(岩村史生)

八学大生開発

アプリは起動すると、地図上に医療機関、食、交通、宿泊などのカテゴリーで色分けされたアイコンが表示され、アイコンをクリックすれば該当施設などの詳しい情報を見られる仕組み。現在、11のカテゴリーで320項目のデータを収容。今後年間200項目ペースでデータを追加し、内容充実を目指す。

三八の英語情報充実へ

いう。

開発に取り組んだのは、グローバル英語ゼミに属する学生ら。卒業生を含む14人が3年

かりで情報収集などを進め、本年度から同市のIT企業アイテイクワークとともにアプリの仕様などを検討してきた。

指導に当たった同ゼミのバリー・グロスマン教授や八戸学院地域連携研究センター副センター長の村本卓教授によると、三八地域で暮らす外国出身者や来

訪客らに有用な情報を知らせる手段は十分とはいえない状況にあり、学生たちに社会で役立つ英語を身に付けてもらう教育目的も兼ねてアプリ開発に取り組んだ。

ゼミの4年生5人はこのほど、両教授らとともに学内でアプリの記者発表を行った。西村璃那さんは「情報収集の過程で知らない地名も耳にし、地元のことを改めて知るきっかけになった」と収穫を口に、中坂和希さんは「米軍三沢基地も近く

客も含め、多くの外国人に利用してもらえればうれしい」と話した。

バリー教授は「中期的には東京オリンピック時に来日した外国人客を迎え入れたい。長期的には三八地域が仕事やレジャーのためのグローバル・ハブ(国際的拠点)になることを期待している」と語った。

アプリはiOS対応で、アプリストアから無料で入手できる。



開発したアプリを発表する学生、教授ら



When tapping on a category search icon, the map display is refined.

学生らが開発した外国人向けアプリの画面